

補助イヤバーについて

近年の動物実験分野では、マウスやラットといった小動物が主に用いられています。小動物用脳定位固定装置は、どこのメーカーの製品も一見すると違いが無いように見えますが、当社製品と他社製品とでは大きくコンセプトが異なる点があります。それが補助イヤバーです。

◆◆ 補助イヤバーのコンセプト ◆◆

脳定位固定装置上へ動物を固定するには、装置の内で動物の位置を調節しながら耳孔にイヤバーを挿入して固定する方法が一般的です。サルやイヌ等の中動物の場合には装置も大きく、動物の構造もしっかりしているためこの方法で差し支えなく定位固定が行えます。しかし、動物が小さくなると装置も小さくなり作業スペースが狭くなるうえ、動物も構造が脆弱なため作業が非常に難しいものとなります。この問題を解決するために、当社の小動物用脳定位固定装置には補助イヤバーを付属しています。先にガイドとなるものを装置の外で動物に装着することで装置への最終的な固定を容易にし、固定位置の再現性も高めようというのが補助イヤバーのコンセプトです。

従来の補助イヤバー



◆◆ コンセプト実現のポイント ◆◆

補助イヤバーを使用して動物を固定しようとする、「補助イヤバーを動物に装着する」という、他社製品にはない固定プロセスが発生することになります。これは負担にはならないのでしょうか？

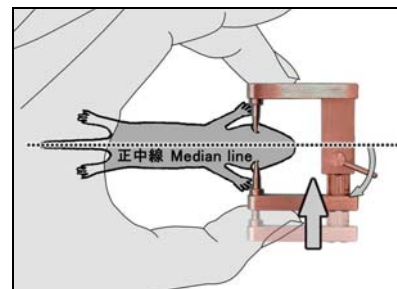
<ここでポイント！>

ここで問題となるのが「補助イヤバーの作業性」です。補助イヤバーの装着自体が困難なようでは意味がありません。当社の補助イヤバーはアリ機構によって滑らかに動かすことができます。またバネの反発力を利用して細かな調整を可能にし、装着中の感触も手に伝わりやすくなっています。片手で作業が行えるように固定ノブの位置にも配慮しています。

補助イヤバーは装置の外で動物への装着作業を行いますので、装置上の様々な部品に邪魔されることなく迅速に作業を行うことができます。また装着具合を自由な角度で確認できるので、的確に耳孔への装着ができます。最終的に装置上で定位固定する際にも、すでにガイドが装着されている状態ですので容易に固定ができ、固定位置の再現性も高くなります。鼓膜が補助イヤバーで保護されていますので、イヤバーで鼓膜を破ってしまう可能性も少なくなります。

このように、補助イヤバーを使うことで、より素早く確実に小動物を定位固定することが可能になります。

現在の補助イヤバー



<ここで豆知識>

ラットやマウスの耳孔は平行にはなっておらず、若干傾斜をしています。このこともイヤバーだけで小動物を固定しようとするときに障害になります。これらの小動物では定位固定のために、耳、口、鼻の三点を押さえますが、イヤバーを耳にしっかり装着することが固定を行なう上で最も重要なポイントとなります。

ナリシゲカスタマーサポートセンター

TEL: (+81) 03-3308-8232

E-MAIL: sales@narishige.co.jp